

## 下町のcommons・坂本町公園が、三たび、蘇りました

中央大学研究開発機構 機構教授 石川幹子

2021年9月1日、日本橋兜町、金融街の真ん中に森・丘・小川が流れ、トンボが群舞するcommons（坂本町公園）が、オープンしました。

自然環境のかけらもない兜町に、何故、このような空間が誕生したのでしょうか？

明治以来132年、公衆衛生・震災・戦災を経て、地域に寄り添いながら歩んできたcommonsの歴史と、再生に向けた、中央区・地元町会・企業・中央大学の取り組みを御紹介します。



中央区 感謝状贈呈式 2021年9月17日



坂本町公園全景 2021年8月

参考：2021年 2月15日

[研究開発機構グリーンインフラ研究室の活動が、「東京都公園協会優秀賞」を受賞いたしました！ | 中央大学 \(chuo-u.ac.jp\)](#)

<https://www.chuo-u.ac.jp/research/news/2021/02/53199/>

「なんてたって坂本町公園」（中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究室）

[8745\\_なんてたって坂本町公園\(研究開発機構 GI 研活動報告書\) .pdf \(chuo-u.ac.jp\)](#)

### 1. 公衆衛生と坂本町公園（明治期）

日本橋兜町の坂本町公園は、明治 22 年（1889）、東京市区改正条例に基づいて決定された公園で、避病院（伝染病病院）跡の人口稠密な市街地に始めて誕生した近代公園です。

御承知の通り、兜町は明治 4 年に第一国立銀行、その後、東京証券取引所の前身である東京株式取引所が設置された金融街で、日本経済を牽引してきた地です。現在、兜神社は高速道路の下となり、隣接する楓川は埋め立てられ首都高速道路となっていますが、江戸っ子の心意気は、連綿として継承されています。

日本の都市計画において、「衛生」が、主要な目的として取りあげられたのが、明治 18 年 2 月より開始された東京市区改正審議会であり、論陣をはったのが内務省衛生局の初代局長となった長與専齋です。長與は、Hygiene を「衛生」と訳し、コレラなどの感染症の防止に尽力しました。長與は、市区改正審議会で次のように述べています。

「人口稠密の都府に園林及び空地を要するは、(略)衛生上より論ずれば、街区相連り(略)、開豁清潔の場所あるに非ざれば、住民日常の生活、産業より生ずる大気の汚敗を更新するの路なく、有害の悪気市区に沈滞して病夭の煤を為し其浄除揮散を求むるも得可からず。是家に庭なく、室に窓ゆうなきに同じく、亦身体に肺臓を欠くに異ならざるなり」(明治 18 年 4 月 21 日 東京市区改正品海築港審査擬似筆記)。

長與は、岩倉使節団の一員として欧米を訪れており、公衆衛生の観点から市街地内に公園を創り出す必要性を認識しており、オランダの軍医ボードウィンが、上野の地を公園にすべきと提案したことを高く評価し、回顧談で述べています。写真 1 は、岩倉使節団が、持ち帰ったニューヨーク・セントラルパークの報告書で、欧米の事情を深く学んでいたことがわかります。

当時、日本では、コレラ、結核が大流行しており、明治 15 年には芝・神田で 5, 076 人が亡くなったと記録されています。

坂本町公園が市区改正条例公布後、わずか 1 年で開園したことは、当時の衛生事情のひっ迫した現状と、人民の命を預かる明治の為政者の決断の速さを理解することができます。

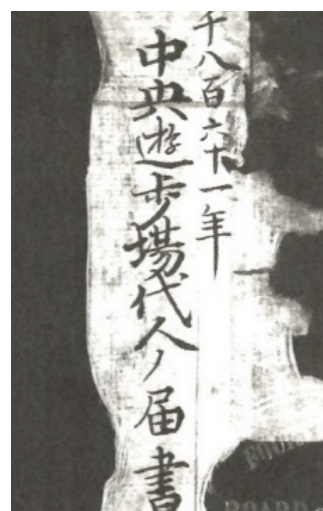


写真 1 岩倉使節団が持ち帰った (NY セントラルパーク年次報告書 1861 年)

## 2. 長岡安平と近代小公園の誕生

市街地内の小公園という、初めての試みにチャレンジしたのが長岡安平(写真 2)でした。当時の東京府知事は楠本正隆、肥前大村藩の出身で、新潟市に白山公園を整備した人物でした。長岡は、楠本に従い上京し、東京府土木掛として、坂本町公園の設計・開設に携わりました。図 1 は、明治 31 年の改良図であり、阪本小学校に隣接し、広々とした芝生広場にエンジュがそびえ小高い丘には休憩所が設けられました。これを取り囲み、桜・梅・椎・榎・檜が植栽され、風雅な涼亭、ガス灯等が設けられ、園路に添って、こまやかに七草が配され

ています。このように、坂本町公園は、これまでの和風庭園ではなく新しい時代を切り拓いていく斬新なデザインであったことがわかります。



写真2 長岡安平

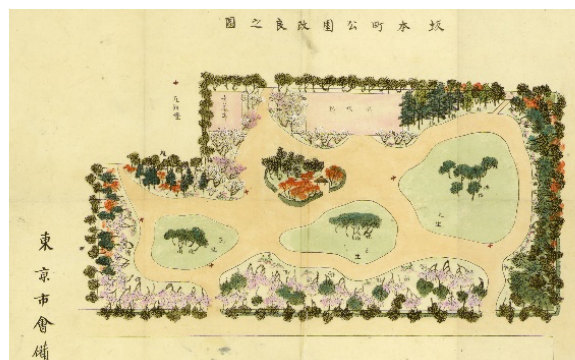


図1 坂本町公園改良之図（明治31年）

### 3. 関東大震災と復興

大正13年関東大震災により、坂本町公園は全焼し、被災者のための仮設バラック、小学校の仮校舎の敷地として活用されました。昭和3年東京市の井下清の指導のもと、復興土地区画整理事業が導入され、新生、坂本町公園が誕生しました（図2）。デザインは、大小2つの広場からなり、震災で亡くなった子どもを偲び、子ども像が水辺に設けられました。明治以来の小学校に隣接し校庭の延長として公園を活用するという考え方は、復興公園（蛸殻町公園・久松公園等）、52カ所に展開され、その後、第二次世界大戦の復興公園にも大きな影響を与えました。

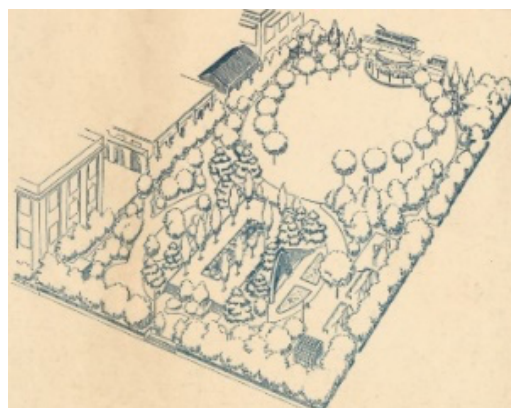


図2 坂本町公園案内図（昭和3年）

### 4. 坂本町公園再生に向けた展開

戦後、坂本町公園は、地域における小公園として活用されてきました。2016年、隣接する阪本小学校の建て替えが決まり、仮校舎の建設のため、三たび、公園は取り壊されることとなりました。阪本小学校は、明治6年創設の「第一番官立小学校」で、文豪・谷崎潤一郎等が卒業している等、坂本町公園と並び、地域の皆様の思いは、ひとしおでした。

震災・戦災で壊滅した公園です。どのような公園が、21世紀にふさわしいのか、深い問いが投げかけられました。中央区環境土木部水と緑の課、日本橋七の部町会、阪本小学校、阪本子ども未来塾、地元企業（平和不動産株式会社）、中央大学研究開発機構等が協力をし、

ワークショップを開催し、時間をかけて未来を模索する検討会が行われました。詳細は、中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究室がまとめた「なんてたって坂本町公園」をごらんください。

最も大切にしたいのが、未来を担うこども達の「夢」です。2019年6月にこどもワークショップを開催し、順次、地元町会へと参加を促し全員で、坂本町公園の未来を考えていきました。



こどもワークショップ 2019年6月17日 (阪本小学校 仮校舎)  
中央大学の学生がこどもたちの「夢」を引き出していました。



地域ワークショップ 2019年 11月27日

中央区、兜町・茅場町町会、平和不動産、中央大学研究開発機構、  
中央大学人間総合理工学科学生

みんなの夢は、「自然を創りだす」ということで、一致しました。しかし、「どのような自然なのか」という議論で原点回帰していくことができたのは、長岡安平の明治31年の考え方でした(図1)。広々とした芝生の丘、取り囲む桜・楓・常緑樹、四季の訪れを優しく告げる七草、生き物を育む水辺として、小川と池が提案されました。図3は、2019年に全員で合意した構想に基づき決定された新生・坂本町公園の平面図です。現代の公園ですが、小川は遣水の伝統を活かし、丘は大刈込のモチーフを適用、平成通りからの視線を妨げることなく、空に向かって広がっていくダイナミックな構成となっています。江戸の園芸文化を継承し、70種類を超える「七草の庭」は、地元の平和不動産が寄贈してくださいました。江戸の華、華麗な牡丹は、



(株) 富士植木さんからの寄贈です。多くの皆さんの志に支えられ、古くて新しい坂本町公園が実現しました。小川は、6月ごろからの通水で、トンボが産卵をし、トンボ王国となっています

有為転変を遂げながらも、未来へとバトンタッチされた坂本町公園。感染症・震災・戦災を乗り越えて、コミュニティの人々に支えられ再生された「地域の誇りとなる公園」は、コロナ禍の時代に、かけがえのない宝が、身近な場所にあることを、私たちに静かに、語っているように思われます。

